

# 高知カツオ県民会議 第二回カツオ消費・漁業分科会 議事録

日 時	場 所
平成29年6月23日(金)16~18時	サニーマート流通センター会議室
出席者	
出席者 (敬称略)	リストを別表で添付 24名 座席配置
旭食品 竹内	かつお 加寿翁 同友会 大熊 県漁協 新生丸 明神丸 サンシャイン 中田 竹内 吉澤 平 米沢 澳本 中元 松下 明神 寺川 野町
サニ- 中村	取材：高新高 八田
	旭食品 旭食品 高新高 工科大 土佐魚類 エスワン 石田 高知県 サン- サン- 福島 安部 福田 浜田 森國 本山 石川 山内 大河 野町 眞鍋
本 日 の 議 事	
1. 新メンバー紹介 2. MEL・MSCに関する勉強会 3. 前回アンケート結果	4. 次回について 5. 野市小学校での環境フェスティバルの案内 6. 佐賀の戻りカツオ祭り
議 事 内 容 (敬称略)	
1. 新メンバー紹介	(10分)
旭食品 竹内	カツオを取り戻すというスローガンのもと、(加寿翁)竹内社長が自ら船頭になって、営利目的だけでなく、力を出し合ってやっていきたい。いろんなメーカーとのつながりやネットワークを活かして情報を集め共有していきたい。味の素とも情報を交換している。我々には馴染みの少ない生産分野の方とも一緒に消費者への働きかけを考えていきたい。高知新聞でもカツオに関する記事があり、その題材と連動した動きができればと考えている。
サンシャイン 野町	カツオは漁業者、小売り、消費者にとって不可欠な財産、課題解消に向けて取り組んでいきたい。
寺川	日々、カツオの仕入れに携わっており、知識の深い参加者と様々な情報交換を行っていきたい。
県漁協 澳本	カツオの水揚げは落ちてきており、特に高知沖、引き縄は苦しんでいる状況であり、こついった実情も含めて、広く情報発信していきたい。
米沢	MSCを漁協でも取って3年が経つが、流通過程も分からず、漁業者も困っている。資源の枯渇という問題もあり、一緒に考えていきたい。
2. MEL・MSCに関する勉強会	(40分)
高知県水産振興部 水産政策課 大河氏より講義	MSC 海洋管理協議会の認証で世界的な知名度がある。
MEL	生産者段階での認証・・・資源や環境に配慮されながら獲られた魚を認証。県内でも取得あり。流通加工段階での認証・・・生産者段階認証済みの魚を流通させるため商品を扱う者の認証。生産者段階・流通加工段階をセットに取得している。MEL認証のカツオが流通するには課題となる条件をクリアしておくことが必要。
以下、意見交換	(50分)
加寿翁 竹内(情報発信部会 副座長)	今のMELには付加価値がなく、高知県が取得してもメリットがない。 高知のカツオに関して言えば、一本釣りや引き縄なので、持続可能な漁法であるのは間違いない。日本にカツオを取り戻すのであれば赤道周辺の漁獲が問題であり、MELの有無はあまり関係ない。アメリカやヨーロッパで大手の水産会社がMSCをなぜ取るかと言えば、消費者が持続可能な魚なのかどうか選択している。量販店等で消費者がMELだから高く買おうかと選択できるような情報提供や売り方については、カツオに限らずやっていくことが必要ではあるものの、資源管理と経済が結びつかないと意味がない。 MELの基準が甘いところも課題。境港で違法操業したズワイガニ業者の認証取り消しもしていない。明豊漁業、遠洋の一本釣り漁業で冷凍(B1)がMSCを取ったので、イオンが買うと言っているが、トップは理解しているが、現場では、MSCは買うが値段は一緒に入れるよといった話も聞こえてきており、漁業者にとってのメリットがないのが日本の現実である。 今日の講演からも、現実的ではない部分も感じる。ウォルマートやコストコといった世界的大手がMSCでないといけないという流れにはなっているが、日本はまだ手前の段階であり温度差がある。
エスワン 石川	MSCの認証を受けた缶詰工場やペットエサの原料を扱っているような会社は実際にあるか？
加寿翁 竹内	今はIUU漁業、レーガルでない、規制してない、報告してない、というやり方に対して、国際社会は不買運動を行っている。タイの大手缶詰メーカーであるタイ・ユニオンのところにカツオが集まっており、それに対して買わないという運動が起こっている。
かつお協 中田	イオンでも約10年前にMSCのカツオを販売したことがあったが、値段には反映されていなかった。本分科会の活動方針としては、高知県において、MSC、MELの普及もあり、今回説明を頂いた。

議事内容(敬称略)

		実際に難しい問題もあるが、今からMSCを取得して、普及するというのも現実的ではない。今、取得しているMELならば、そういった形ができるのではないかを探してみたい。
サニ-	中村	お客様が求めているのは鮮度や質なのだが、MSCやMELはその保証をしておらず、ズレがある。どこでとれて、何日経ったといった情報が分かるような形になれば、お客様ももっとお金を払ってくれるようになるのではないだろうか。MSCをとった漁船の鮮度管理は分らず、お客様にとっては、MSCであろうがなかろうが、鮮度がいいものにお金を払いたい。
加寿翁	竹内	カツオの資源管理と別にして高知のカツオにはトレースがあり、生でも冷凍でも、おいしいプロセスがありますという尖ったやり方があるのではないだろうか。
かつお協	中田	MSCが発展したのは欧米に持続可能な漁業を守るという取組みに寄付をするという気風もある。我々にも、消費者にMELを分かってもらうことを発信していく必要がある。
県漁連		MELの認証を受けて、過去取り組んだ際には仲買の中には、こういうもの(エコベル)を付けられたら困る、買った後に剥し、頓挫したことあった。左賀の日戻りカツオを商標登録し、その日帰ってくる引き縄漁業者が扱えるようになり、非常に喜ばれた経験があるが、結局、漁が少なくなってきて、維持できなくなったしまった。
同友会	吉澤	例えば東京オリンピックはMELの魚でないと選手村では、今の方向性としては優先的に使っていくとなっているようだが、これがもっと大々的に伝われば、認知度も変わるかもしれない。
サニ-	中村	コーヒーのフェアトレードのような価値訴求ができればいいが、生モノには難しい部分もある。
土佐魚類	森國	中央市場に入る船には個人個人がMELに認証を受けていると分かるような状態になっているか?
かつお協	中田	近海かつお一本釣りは全部入っている。
県漁協	澳本	県漁協の場合は、引き縄でほとんどが取っている。
土佐魚類	森國	個人で遊びに行き獲った船を買ってほしいと持ってくる人もいるなかで、市場としては、いかに鮮度や質の違いを分けていけるのか、その仕組みがあるのかが課題。
		入ってきた鮮度のいいものを早く売りたいのだが、漁師は夕方、6時まで漁をしてそこから市場に魚を持ってきており、量販店では明日の商品手配が終わっている状態であり、魚屋が朝、買っていつている。このあたりMELがどうやって決めていくのかが分かりづらい。
かつお協	中田	品物がいいからMELということでもなく、消費者にも寄付、協力といった気持がないと成り立たない。
エスワン	石川	卵を生ませるため鶏を道具のように扱う状態が動物愛護という観点からは問題があるということで放し飼いで育てるので高くなるが買ってほしいというコストコの取り組みを見たことがあるが、消費者にも水産資源を守るためにお金を払わないでいい。有機栽培なども難しく、そんなに売れない。今の取り組み自体が基準よりも高いところで行われているなかで、あえてそこに取り組んで、アピールしていくことが果たして必要なかどうかは考えてもいい部分でもある。
		和牛であれば、4等級以上で基準をクリアしたものを〇〇牛と名前をつけるようなことができれば分かりやすく伝わるかもしれない。
サニ-	中村	お客様からすると「漁師が釣って漁師が焼いた」というのが一番有名。質がいい、伝統的な漁法で資源を守っていくということもやっていくということもくっつけて伝えていかないと、守るためにお金を使ってくださいということだけでなく、おいしいですよってことを一緒にやる必要がある。
同友会	吉澤	アメリカの場合はエンカルだけで賛同してもらえるが、日本だと、エンカルだから・・・おいしいとかでないと受け入れてもらえないところがある。
サニ-	中村	いきなりエコベルのシールを貼ってもお客様はなんのことか分からないし、高い意識の人は、高知の中では、鮮度の高い方を買おうと思っている。シールをいくら普及させても、そこがくっついていかないと本当には普及しない。
		龍馬とカツオに頼り過ぎており、量販店もカツオに頼り過ぎていて。これだけ物流も発達しているなかで県外のおいしい魚をもっと発信できるはずだが、カツオばかりを連呼している面がある。カツオのありがたみを高知の消費者は感じておらず、いつもあるのが当然である商品に対する価値の上げ方をどう進めていくか。和牛のような考え方は参考になる。
エスワン	石川	MSC認定のイタドリみたいな感覚、もともとある食文化にあとからくっついてきたようなイメージでおいしくなさそうで、消費者にはしっくりこない。
		始まって丸10年がたって、これだけ普及していないのには何か問題がある。
サニ-	中村	高知の人にとってカツオがいつか御馳走になる。マグロやウナギのように高くなっていく環境にある。漁業と消費をつなげていくには、今とこれからの未来予測図、カツオをおいしく食べ続ける漁を理解してもらおうといったことを一緒にやっていかないといけないだろう。
旭食品	竹内	いろんなやり方、いろんなこだわりがあるのが高知の良さでもある。どんどん出していける会にしていきたい。加工品や節、だしもあるが、生に対してのこだわりを持ち続けたい。
明神丸	明神	今年のカツオ漁は、いいときはそこそこ上がるが、天候と巻網の関係で中型船例年より悪い。
土佐魚類	森國	高知市況としては、近海は例年になく揚がってきている。
サンシャイン	寺川	その近海ものを買わせてもらっているが、消費者に対しては日戻りが一番付加価値が高い。NSC、MELのシールを貼っただけでなく、明確な基準があつて地域貢献になる。
		量販としては、売れずに、原価も高いものではなかなか扱えないのが実情。
		獲れなくなっていると聞いてからも、カツオは売場に並んでいる状況があり、資源維持から見ないとMSCやMELといったものがヒットしないため、おいしいカツオをもっと食べてもらうためには認証も天事と先んじて手を打っていかねばならない。そしてもっとおいしくするための努力もさらに必要。生き締めをやっているような取り組みもあるようで、そういった取り組みも考えていい。
かつお漁協	中田	高知の沿岸で漁があるが、全体では不良であり、たまたまよかっただけという状態であるようだ。

議事内容(敬称略)

サニ-	中村	その実感が売場でも市場でもわかっていないような状態であるということになる。 よりおいしいもの、より質のいいものにお金は払ってくれるので、伝え方の工夫は課題。 カツオマイスターとの連携も必要だろう。 答えは出ないが、どうしていくか、それぞれの立場でないところで考えてもらったほうがいいかと思う。 わざわざ認証を受けた理由、なぜそれを売ろうとしないか、そういった理由をまた考えていきたい。
3. 前回アンケート結果		
結果については記述どおり。各位参考にして頂きたい。		
サンシャイン	野町	消費者の方にもっと認識してもらわないといけない。生産者や漁業関係者の現場での生の声を もっと聴かせてもらえれば、何かの機会に消費者に情報発信できることもあるので、声を頂きたい。
旭食品	竹内	生産者、漁協、小売りで、いろんなこだわりで高知のカツオがうまい、普通に高知で食べる カツオが当たり前でうまい理由があればPRしていったらいいのではないかと感じた。
4. 次回について (10分)		
7月24～28の週での開催を検討したい。 アンケート形式にて希望日、時間帯等でのご意見を問いかけていただく (なお水曜日は休市となるため外す)		
5. 野市小学校での環境フェスティバルの案内 (5分)		
かつお協	中田	カツオをもっと知ろうということで、講演、勉強、試食を予定している。 当日、晴れていれば運動場を駐車場で解放することだが、 雨天の場合は、運動場が駐車場で使えないため、来られる方には各位での調整をお願いしたい。
6. 佐賀の戻りカツオ祭り (5分)		
明神丸	明神	何か分科会としての活動ができるのではないかと考えているが、具体的にはまだ決まっていない。
新生丸	松下	カルポートのシンポジウムでも、スーツ姿でなく、お揃いのポロシャツなどを作って着れば、 県民の方にこういった団体があると知ってもらえることに繋がると考える。
エスワン	石川	よさこいでうちわを配ったりするようなアイデアも使えるのではないだろうか。
以上		

## 第二回カツオ消費・漁業分科会 参加者リスト

2017/6/23

	No	企業・団体名	役職	参画者氏名	6/21 第2回 出欠
座長	1	株式会社サニーマート	代表取締役	中村 彰宏	出席
副座長	2	高知県かつお漁業協同組合	組合長	中田 勝淑	出席
副座長	3	旭食品株式会社	代表取締役社長	竹内 孝久	出席
	4	土佐魚類 株式会社	部長	森國 一	出席
	5	土佐魚類 株式会社		本山 栄次	出席
	6	株式会社エースワン	商品部 部長	石川 裕章	出席
	7	株式会社大熊		平 政彦	出席
	8	有限会社松下新生丸漁業	代表取締役	松下 功	出席
	9	有限会社明神丸	代表取締役	明神 好和	出席
	10	株式会社サンシャインチェーン本部	取締役生鮮商品部長	野町 一志	出席
	11	株式会社サンシャインチェーン本部	水産課長	寺川 和孝	出席
	12	高知工科大学	地域連携副機構長	浜田 正彦	出席
	13	土佐経済同友会	代表幹事	吉澤 文治郎	出席
	14	高知県漁業協同組合	代表理事組合長	澳本 健也	出席
	15	高知県漁業協同組合	参事	米沢 守	出席
	16	高知県漁業協同組合	購買部長	中元 司	出席
	17	石田祝稔事務所	衆議院議員	山内 大志 (代理)	出席
	18	旭食品株式会社		福島 徹	出席
	19	旭食品株式会社		安部 裕智	出席
	20	高知県水産振興部 水産政策課	チーフ	大河 俊之	出席
	21	高知新聞		福田 仁	出席
	22	株式会社加寿翁コーポレーション	代表取締役	竹内 太一	出席
	23	株式会社サニーマート	商品部 水産	野町孝一	出席
事務局	24	株式会社サニーマート	経営戦略室	眞鍋 隆裕	出席

※高知新聞 八田様 取材あり

出席

24

名